

日常としての「無駄話」

— 研究者で構成されたウィーチャットグループのチャットに対する参与観察

劉 曉茜

(訳) 飯田直美

監訳) 高明潔



一 本論の背景

チャット履歴(1)

Ad..大衆のイデオロギー意識が低いと、教育の仕事はやりにくい。生命科学の観点からもっと仕事の効率が上がるように考えるべきです。

Aa..「仲間には春のような温かさで接する」(人への愛情と仕事への熱意を示す雷峰のことば)……そんな単純なことではないでしょう。善良な遺伝子を移植するだけで、階級闘争はどうしますか?!

Ad..闘争は手段であって目的ではありません。共産主義社会は人類社会から一切の衝突と矛盾を消滅します。科学もまた生産力であり、生産力を引き上げれば、必ず直接あるいは間接的に人民のイデオロギー意識は高まります。これはマルクス主義の弁証法的唯物論の実践です。実践は真理を生む最良の方法です。

Aa..そんな難しい仕事は北京ゲノムセンターでも無理でしょう。思想政治教育の力も借りなくては!

Ad..教育者は山頭主義(派閥主義)になつてはいけません。自分の利益だけを見るのではなく、職業の立場から世界に目を向けなくては!

Aa…生物学に魂のプログラミング〔道徳的教育〕はできません！

Ad…唯心主義はだめですよ、先生！

Aa…生理学的唯物論は弁証法的唯物論が統率すべきですよ！
Bb…いまは人工知能の時代ですよ。（につきりマーク）

チャット履歴(2)

Aaが一枚の写真を転送した。その写真では、ある人が自分のウィーチャットの二次元コードのカードを胸にぶら下げている。

Ad…よくわかりません。物乞いではないようですが。

Aa…露店商。

Ab…みんなこんな風ですよ。

Aa…第三世代身分証。（中国国民一人ひとりに公布されるIDカード。現在はICカード機能を備えた第二世代が公布されている。第三世代は二〇一一年に提案され、構想の段階）

Be…（親指マーク）

Ad…いっそ頭にチップを埋め込んでしまおうとか。

Aa…まずは二次元コードを顔か腕に入れ墨するでしょう！

Ad…それはだめでしょ、彫師が偽造できてしまう。

Aa…ああ、確かに！

この二件のチャット履歴は、「扯淡群」（以下、無駄話グループと訳す）と名づけられたウィーチャットグループの二〇二〇年以降の会話から抜粋したものである。この無駄話グループのオンラインチャットが本論の研究対象である。無駄話グループのメンバーは、全員が人類学かその関連分野の研究者で、四〇歳から七〇歳までの男女である。筆者は二〇一七年にリーダーから招待されてグループに入り、その後ずっとこのグループのチャットのやりとりに参加してきた。二〇二〇年に本論執筆を決意してからは参加を減らし、観察を主とした。このグループはほぼ毎日やりとりがあり、ある時は一日に百以上の書き込みがある、非常に活動的なグループである。このグループのメンバーは、本論が標題に掲げるような状態、つまり、毎日「扯淡」（無駄話）の形式で会話をしている。要するに「無駄話」はメンバーたちの日常生活の一部になっており、また日常的なコミュニケーションを保つための手段であるとも言える。

チャット履歴(1)や(2)が示すように、「無駄話」にはさまざまな表現形式がある。例えば、チャット履歴(1)では、最初は二人のメンバーが言い争いを始めたようにみえるが、実際には言い争う振りをしていて、二人が話す内容は自分の考えをあらわしているわけではなく、暗黙の了解でそれぞれ二つの相対する権威的な観点、すなわち生理学的唯物

論と弁証法的唯物論に分かれて、お互いにその権威の声に扮して論じ合っている。チャット履歴(2)の会話は、最近街頭でよく見かける、露店商がウィーチャットの二次元コードで決済をする現象についてである。Aaはこの二次元コードをみごとに連想とリアルな表現で「第三世代身分証」に見立てている。ここでは軽いジョークの口調であるが、Adが「彫り師が偽造できる」と言うと、Aaは「ああ、確かに！」と答え、「でたらめな肯定」もしている。というのも、二次元コードは露天商の集金ツールであり、これを偽造しても自分にお金が入るわけではないので、偽造する人などいるはずがないのだが、このように「でたらめな肯定」をすることで、この会話を愉快に終わらせている。

厳粛で真面目な学風に身を置く筆者は、このような独特な会話のしかたに自ずと好奇心が生まれた。彼らのような中国のベテランの人類学者たちが、なぜ「扯淡」(無駄話)という形式で、日常的にオンライン上のコミュニケーションを楽しむのか。筆者は観察を重ねるに従い、次のことに気づいた。ここでは秩序なく自由に無駄話をしているようにみえても、実は「潜在的な定型」があり、話題選び、メンバー間の関係構造、話し方の選択といったすべての面で、あるルールに従っている。今まで誰もこのルールについて取り上げたことはないが、これまでずっと無駄話グループのチャットは自然とこのルールに従ってきた。そ

して、まさに無駄話の存在こそこの型に相当するものであり、しかもこれらのルールに効果的な作用を及ぼし得るということを発見した。

こうした問題を説明するため、本論ではまず新しいソーシャルメディアであるウィーチャットとウィーチャットグループについて紹介し、後に無駄話グループの誕生、メンバー構成、会話の概要について述べる。文献を総括した後、チャット履歴(3)から(9)までの七つの例を取り上げて分析を加える。今後の研究に有益となるような説得力のある結論を引き出していきたい。

二 ウィーチャットとウィーチャットグループ

ウィーチャット(「微信」WeChat)は便利で手軽な携帯アプリで、この十年来、中国のインターネットユーザーの間で最も主流な新しいソーシャルメディアのツールである。利用者はウィーチャットのアプリからいつでもどこでも他のユーザーとコミュニケーションをとることができる。コミュニケーション手段には、文字やボイスメッセージ、音声通話、ビデオ通話がある。ほかにもウィーチャットには、たとえば生活に関するサービスや、決済、融資、交通やショッピングなど、さまざまな実用的機能がある。これらの実用的機能とコミュニケーション機能により、あ

らゆる層のネットユーザーの間でウィーチャットの受容は大幅に進んだ。

ウィーチャットグループは、ウィーチャットにおけるチャット機能の一つである。ウィーチャットの基本設定で、グループでは一人がリーダーとなり、その他はグループのメンバーとなる。システム的には、グループの発起人が自動的にリーダーに設定され、メンバーリストの先頭になる。リーダーのポジションはメンバー間で交代することもできる。リーダーとメンバーは、他の人をグループに招待したり、チャットやメッセージといった多くのサービスを同じように利用できる。しかしグループからメンバーを退出させる権限はリーダーのみを持つ。また、一般的に「リーダー」には社会的文化的な面での意味も込められており、その意味でもグループのトップである。しかし、その社会的文化的な意味合いが具体的に何を指すかは、グループによって大きく異なる。

日常的な会話のなかで、リーダーやメンバーはさまざまな技術的機能、たとえばメッセージ、ファイルの送信、リツイート、ボイスメッセージ、ビデオメッセージ、^④「红包」(ご祝儀)の送金などの機能を共有する。グループのメンバーはいつでも文字やボイスメールを用いてグループで「話をする」ことができ、その内容はグループ全員が見ることができ、@マークを入力した後にメンバーの

ウィーチャットのアカウント名を入れると、@の後ろに指名したメンバーに話しかけていることを意味するが、その話の内容はグループ全員が見ることができる。

ウィーチャットグループは閉鎖的な交友関係であるとともに、開放的でもある。チャットの内容はグループメンバーだけが見ることができるため閉鎖的と言えるが、メンバーの誰かがチャットの履歴を切り取って他の場所でシェアしたい場合、ウィーチャットはこうした機能もサポートしているため、開放性を備えているとも言える。

三 無駄話グループ

——「人類学者の無駄話グループ」から
「無駄話+グループ」へ

中国では人類学者で構成されるウィーチャットグループは少なくないが、他のグループに比べて無駄話グループには二つの特徴がみられる。一つは、メンバーが比較的少数なことである。他のグループでは数百人はよくあること^④で、上限人数の五百人に達するグループも多くみられるが、無駄話グループの人数は多くても二十数人しかない。これについてリーダーは、「人が少ないほうが本当に話すことができる」と説明する。二つ目に、研究者で構成されたグループの多くは、会話のやりとりが比較的公式で

型通りだが、無駄話グループのチャットでは「無駄話」をする傾向があり、それがグループ名になるほどである。これについてリーダーは、「無駄話とは世間話のことで、私は個人的に単に何でもない話が好きなので」と説明する⁵⁾。

無駄話グループのメンバーは、リーダーによってグループに招待されており、どのような人をグループに招待するかについて、リーダーはすべて「知人」を招待していると説明する。メンバー間に至っては、研究や仕事で一緒になったことがある知り合いもいれば、面識もなく年齢や性別もわからないような人もいる。しかし、人類学を学んでいることでリーダーとは「知人」である。そのため、ある種の社会的信用が存在するらしく、無駄話グループに入ればすぐさま「ともだち」になる。ある意味、このグループでは、リーダーと各メンバーとの関係はメンバー同士の関係よりも明確であるが、「ともだち」の間がどのような関係かは手探りの段階であると言える。

リーダーの「知人」としてのこれら無駄話グループのメンバーたちは、全員が高等教育機関の職に就いており、現在二人のメンバーが海外で働いているが、その他は国内に職場を持つ。また、グループのメンバーは個人でグループに入っており、グループ内に彼らの家族はいない。そのため、本グループは概してメンバーにとつて職場や家庭環境以外の、オンラインによる社会的空間であるとみなすこと

ができる。

感染症流行の二、三年前、無駄話グループは「人類学批評群」（人類学者の無駄話グループ）と称し、二人のメンバーがいた。新型コロナウイルスの爆発的流行後、このグループのチャットのやりとりは一気に盛り上がり、一時は言論が過激すぎてウィーチャットの規定に抵触し、グループを停止されてしまった。その後、リーダーは以前のグループで比較的活発だった一人のメンバーを改めて招集してまたグループを作り、「扯淡十群」（無駄話プラスグループ）と名づけた。これについてリーダーは次のように説明する。

「第一に、「十」は前のグループの生まれ変わりを意味し、継続性を表します。第二に、今後またグループが停止されても、別の名前をつけなくてもこの名前の後ろに同じようにまたひとつ「十」マークをつけなければならない。このようにグループの継続性を示して、その都度新しく生まれることを表現しています。」

それ以降、新しい無駄話グループにはこの一人のメンバーが所属している。本稿発表までグループは再び閉鎖されることなく、「無駄話プラス」の名称をそのまま用いている。本論ではこれらグループを「無駄話グループ」と総称することとする。

前述のように、「リーダー」はウィーチャットアプリの

技術的機能のひとつであり、グループの発起人が自動的にリーダーに設定され、リーダーとしての機能を担う。一方で、多くのグループでは、「リーダー」ということばに社会的文化的なニュアンスも含んでおり、これは無駄話グループでも同様である。年齢や経歴に関わらず、リーダーはグループ内で一番の重鎮であり、またメンバーの共通認識では社会的文化的な意味でのリーダーでもある。特筆すべきは、グループ内でたまにリーダーの専門的な資質を称賛することがあっても、リーダーは意図的か無意識か、これまで自身の職業としての優位性について言及したことはほとんどない。多くのチャットの話から明らかのように、リーダーは自分が本職において指導者であるかどうかは全く気にしていない。グループの中には専門分野で能力を持ったメンバーも少なくなく、研究面でリーダーと競えるほどの者もいるが、そういったことはリーダーをトップとして認めることに何ら影響していないようだ。このグループのリーダーの地位は、専門的な資質以外の要素で維持されていると言える。本論ではこの要素が何なのか、そしてそれが無駄話とどのような関係があるのかも考察していきたい。

リーダーとメンバーという第一の階層構造のほかに、このグループを分類する二つの基本的な枠組みとして、年齢と性別を取り上げる必要がある。「年齢別」は無駄話グルー

プでは明確な序列の概念である。つまり、年齢と密接に関わる職場のキャリアはこのグループでは暗黙の主要な序列関係であり、これは実際の職業上での序列関係と一致する。性別に関しては、父権制が無駄話グループにおいて影の序列制度であると言っても言い過ぎではない。しかし同時に、性別という概念はこのグループでは、単に「不平等」をあらわすだけのものではないことも指摘しておきたい。このグループには女性三名おり、Afは国内で教育を受け、現在は国外で働いている。Bdは国内で教育を受け、国内で働いており、Beはヨーロッパで教育を受け、現在国内で働いている。彼女たちの異なる経歴は、性別やその他の問題に対して三者三様の異なる認識となつてあらわれている。彼女たちはグループ内では研究者として扱われることのほうが多いのか、それとも女性として扱われることのほうが多いのか。また三人の共通点は女性としての部分と研究者としての部分では、どちらのほうが多いのか。こうした問題は簡単に明らかににはならないため、性別による分類は難しさを増す。さらに無駄話グループのチャットのやりとりには面白い現象が現れており、男性メンバーが他の女性の批評をするときや、自身の性別意識を露わにするとき、彼らは逆にグループ内の女性メンバーを排斥したり差別することがほとんどない。

こうしたグループの構造状況に基づいて、説明の便宜

上、無駄話グループ一名のメンバーを年齢で二つのグループに分け、AとBで表すことにする。年上のAグループは男性五名と女性一名で、リーダーはこちらのグループである。年下のBグループは男性三名と女性二名を含む。そしてメンバーそれぞれに次のように記号をつける。Aグループは、リーダーをAaとし、他の四名の男性はAb、Ac、Ad、Ae、女性をAfとする。Bグループは、男性三名をBa、Bb、Bc、女性二名をBd、Beとする。

無駄話グループのチャットの話題は非常に豊富で、国際関係から些細なことに至るまであらゆることが話題にされる。なかでも頻度の高い話題は、各国政府の言行に対する皮肉や、国内外のホットな出来事、流行のビジネスの動向やグルメなどである。そして、これら雑多な話題には共通して、グループメンバーの個人的利益とは明らかに直接の関係がないという特徴がある。これに関連して、メンバーは基本的にこうした話題について資料を揃えているわけでもなく、真剣に研究したこともないが、そのことは彼らが日常的にこれらの話題について熱心に議論することにまったく影響していない。

話題が雑多であることに比べて、チャットのことば遣いや観点には繰り返しが多い。たとえば皮肉、冗談、でたらめなど、さまざまな形で無駄話が繰り返し返される。そしてこれらの表現方法は例外なく、話者の既存の認識を繰

り返し強調するものでもある。頻繁に無駄話の形式でチャットするメンバーもいれば、あまり使わないメンバーもいる。好んで無駄話をチャットするメンバーはグループ内の発言頻度も比較的高い。無駄話の表現が曖昧過ぎると、聞き手は話し手と同等の「文化親密度」[Herzfeld 2014]を有する共通の知識を持つていなければ、話の意図を見分けることができない。会話の内容を再度解説しなければならず、しかもメンバー間で読み間違えや言っていることがわからない状況が起きてしまう可能性がある。

要するに、無駄話グループはグループの構成、外部環境（インターネット世論調査を含む）だけでなく、内部のさまざまな序列関係などから見ても、不安定で不確かな潜在的矛盾に溢れている。こうした背景の下では、表面上は雑多で気ままな話題に見えても、実は明確な境界があり、無駄話はこのような会話の環境の中に存在する。

四 「無駄話」研究に関する視点

二〇〇〇年以降、中国国内の学界では「無駄話」の現象についての議論が大幅に増加したが、これは概して「無駄話」と称する現象がここ何年かの間に、国内で珍しくなくなったことを反映している。

関連文献の多くは、アメリカの哲学者ハリー・G・フラ

ンクファート (Harry G. Frankfurt) が一九八六年に発表した『On Bullshit』の文章を研究の基点としている。この文章は無駄話に対して批判的であり、無駄話は証拠、常識、理論、文脈や事実を無視した表現方法であるとする。フランクファートは無駄話と故意につく嘘とを比較して、嘘よりも無駄話のほうが一層ひどい状態であると指摘した。なぜなら嘘つきははっきりと真と偽の区別をしたうえで、偽を選択しているが、無駄話をする者はその真偽には全く関心がないからであり、その背景には真理への無関心があるという。

この脈絡に沿って、ある学者は現代化の観点から無駄話の現象について次のように説明する。

「無駄話が普遍化する現象は、現代化が成熟する過程で人類が生存するための形態の一つである。資本化によって生じる資本の切り下げと切り上げの対立、使役する者とされる者の対立という二重の矛盾の中で、人類は知恵の次にとばを最適化しようとしているのである。無駄話は問題の意図に直接触れずに話すためのことばの技巧であり、目的は相手の話に戻事をするかしないかにある。よって、無駄話は現代化の成長に応じたことば遊びである。」

別の文献では、神経心理学に関する研究成果を引用して、無駄話の現象に検討を加えている。心理学者のジョン・ペトロセリ (John Petrocelli) は、くだらないおしゃべ

りは比較的よくある社会行為であるが、その発生条件についてはあまり理解されていないと指摘した。そこで、ミクロレベルから無駄話を作り出すさまざまな条件を探るべく実験をした [Petrocelli 2018]。その結果、「無駄話」現象を引き起こす以下の四つの状況を導き出した。①話者が関連する知識や事実について十分に理解していない。②話者が自分の考えを発表しなければならぬと感じる (たとえば卒業面接で何もわからなくても無理にでも答えなければならぬような状況)。③相手も関連する知識や事実を十分に理解していない。④話者が自身の言論に責任を負う必要がない。

哲学面での考察と、無駄話発生に対する実証心理学の実験研究による認識には、相通じるところがあると筆者は考える。それらは無駄話がある程度マクロ的にもミクロ的にも歴史文化的環境と密切に関係していることを示している。無駄話はこのような環境の下で、話者が真相に対していい加減で無関心なことを表わすのに効果的であり、また無駄話はこうした環境や態度に最適な表現方法であることを示している。

さらにある学者は、新しい伝達メディアの角度から考察を進めた。彼らはインターネットと新しい伝達メディアの普及は多くのメリットと利便性をもたらしたとする。たとえば、新たなコミュニケーション方法とコミュニケーション

ンの場を作り出すことを可能にした。しかし同時にデメリットを生み出したとする。一つに、インターネットの技術的ハードルが低くなったことで、大量のネットユーザーが一夜にして受け手から参加する側にかわり、自分で気ままに言論を発信し広めることができるようになった。人々は公共空間としてのインターネット上で、自分では調査や考察したこともない話題を論じ、個人的感情や感覚を表現しても、ほぼ何の責任も負う必要がない。こうしてさまざまなでたらめがネット空間に氾濫した。

これらの研究は異なる視点で無駄話の現象について説明しており、本論が哲学、実証科学、インターネットにおける新しい伝達メディア等の面から無駄話グループの分析をするための基礎ともなっている。しかし、さらに別の観点から、無駄話のこうした会話形式にはプラスの機能は何も見出せないのかも問うべきであろう。もしないとすれば、どのような社会条件下であれば存在するのか。この問いを考えることは本論の研究に適しているだろうか、あるいは本論が提示する問題解決の一助となるだろうか。

ここからは、筆者が二〇二〇年三月一日から九月三〇日までの七カ月間の無駄話グループのチャット履歴から、出現頻度の高かった話題を取り上げて分析を行なう。

五 チャット履歴と分析①

チャット履歴(3)…新型コロナウイルス感染症

一時期PCR検査が急がれ、政府はさまざまな通達で、人々に積極的にPCR検査を受診するよう訴えた。ある日、Abが「中核地域全員の検査を激励する」というキヤッチコピーをシェアしたところ、次のような会話がなされた。

Aa…私は自分の意思で申し込みませんでした。だって、新発地〔北京南西部の豊台区。北京市最大の卸売市場がある。二カ月近く新たな感染者が出ていなかった北京で、二〇二〇年六月一日以降、新発地の市場関係者から集団感染が発生し、六月一三日より近隣の一一地区とともにロックダウンが敷かれた。〕にも、新発地に行ったことがある人とも関わっていないし、サンプルが混ざ⁹⁾、つて間違えられ¹⁰⁾たら怖いから。

Ab…我が家は検査していません。集中検査に行くよう通知がありました⁹⁾が、自宅で検査する方がいいので。

Aa…無駄でしょ、検査後に自主隔離を徹底するしかありません。

Ac…私の地区では区内の小学校で検査しました。ちょうど小学校が空いていました。

Ac…私の職場は自分で一回検査をしました。

Ac…すると、暇人が職場で結果を聞いてきたので、心配しなくても問題があれば電話がかかって来るだけでなく、救急車がドアの前まで来るだろう、と私がひとこと言って以来、話題にする人はいなくなりました。(手で顔を覆って泣くスタンブ四つ)

Ab…@リーダー、今回検査しに行かなくても、やはり検査させられるのでは。もつと遠方まで出向いて、乱雑に測られたらもつと危険かもしれません。

チャット履歴(4)…国際関係、トランプと責任の押しつけ

ある日、リーダーはあるスレッドを載せた。テーマは「トランプ宣言…世界保健機関への資金援助を停止」⁽¹¹⁾。内容はイギリスの『ガーディアン』紙が発表したトランプのWHOに対する非難であるが、この記事の文章が曖昧で不明瞭なため、リーダーはスレッドの下にこう書いた。「ガーディアンは一体何を言っているのか?」

Ac…「譚書記」(テドロスさん)⁽¹²⁾はずっとWHOとUSAは良い関係だと言っていますね。

Aa…仲たがいうるならすばいい。トランプは信用できない!

Ab…彼が騒ごうが騒ぐまいがもうたくさんだ。

Aa…ウイルスを前にしては、力を合わせて封じ込めたほうがいい!

Aaが再び、「新たな規制の施行、ビジネスでの北京入りを完全封鎖!」というスレッドを載せた。

Ab…まだ全国人民代表大会も中国人民政治協商会議も開いていないのに、もう封鎖してどうするの。(チャット当時、この二つの会議は二〇二〇年三月に開催される予定であったが延期されていた。毎年この会議の期間は入京制限が行なわれる。)

Aa…食品を販売する人は入京できますよね。

Ab…もちろん…:

Ba…「川建国」(トランプさん)⁽¹⁴⁾の「甩鍋」(押しつけ)⁽¹⁵⁾は明らかだけど、今回はおそらく「譚同志」(テドロスさん)⁽¹⁶⁾が押しつけたがっています。

Bb…国連は調査に入って、人道に対する罪で脅すのではないでしょうか、ちよつと無謀ですが。

Aa…いつ調査に入ると言っていますか?

Ab…中国は常任理事国だから、国連の調査手続きは進まないでしょうね。

Ac…進められないでしょう。

Bbがスレッドを載せた。テーマは「国連がウイルスの起源を徹底調査、人工的に合成されたものだとしたら、人道に対する罪で起訴するだろう」。

Ab…だから世論戦になるのは間違いない。次々と証拠を持ち出して口論するだけのことでしょう？

Ac…でも中国はすぐ孤立するはず。

Bb…押しつけが続いて、そのうちみんなぐだらなれないと思うようになればいいと思います。

Ab…その結果、各国がまたそれに従うと、孤立してしまう。

Aa…口だけなら何とでも言えますが、可決立件されたらそれまでです。中国の民間メディアはデマが多いけど、情報には価値があります。国営メディアにデマはないけど、大した情報はありません。

Ab…どうして次々と「デマ情報を流す電話や、デマ情報に対する注意の」電話がかかってくるのかやっとなかった。

Aa…最終的に二分化は避けられないだろう。

Ac…和やかにいきましょう。

Ac…戦うことを望まず、戦うことを恐れず、やむを得なければ戦う、「中国のアメリカ外交の姿勢をあらわしたことば」

Aa…歴史はいつもこのように、反理論的だ！

Ab…反理論でもないでしょう。チンピラと同じですよ。

Ab…国際関係というものに正当な理論なんてありません。

Bb…面白い話ですね、実感があって。

Ab…まったくナンセンスです。

Ab…私は無学なほうだけど、闇社会の理論は国家間の理論と大差ないと思います。

Aa…ご謙遜を！

Aa…国際関係の話ではなかったのに。

チャット履歴(5)…国内で話題の「後浪」

流行の話題は、ある時突然多くのネットユーザーの関心を引き、その後冷めて消えていく。このような話題は国内のインターネット上に次々と現れ、インターネットで使われる新語も次から次へと尽きることなく現れる。「後浪」〔直訳すると後ろの波。ここではいまどきの若者を指す〕は、そんなインターネット用語の一つである。このことは二〇二〇年五月三日に「B站」(哔哩哔哩 Bilibili、中国の動画共有サイト)で五四青年節のためにリリースされた「後浪」と題するビデオクリップに由来する。ビデオでは、俳優の何冰が「長江後浪推前浪」「長江では後ろの波が前の波を押し流れる。後輩が先輩を追い越す喻え」という故事を踏まえて、若者を指すのに「後浪」の語を用い、九〇後(一九九〇年代生まれの人)、〇〇後(二〇〇〇年代生まれの人)に対する理解と称賛を表した。この表現方法は広くネットユーザーの関心を引き起こした。⁽¹⁾無駄話グループで後浪についての議論は断続的に三カ月間続いた。「後浪」の文字は、グループのチャット履歴で五月初めに出現し八月初めまで探すことができる。

Aa…私はこれを理解するのに時間がかかりました。まず、
〃B站(B 駅)の意味がわからず、〃B站”には前後に〃A
站”(A 駅)も〃C站”(C 駅)もない、それしかないもので、
ようやく〃嘩哩嘩哩”(bilibili)の別の言い方だとわか
りました。次に〃後浪”。はじめはグロバリゼーション
後の流れのことかと思つたのですが、いまどきの若者への
称賛のことだとわかりました。「若いことは良いこと」と
いうのはありふれているし、「一代ごとに劣化する」と見
下すのも何の新しいさもないですが、前浪には後浪を羨むこ
とを「選択」する権利があり、さらに羨望する気持ちが昇
華して敬意になつていゝのは目新しいですね。

Aa…次々と切り開き、勢いよく流れよ、後浪！

Aa…後浪のエリートよ、岸をも砕け！

Ab…前浪・後浪というのは説明力が足りないようです。

Aa…紅衛兵とはもう呼べないから、後浪でもいいでしょう。

Ab…紅衛兵なら意味が明白ですが、後浪だともっと多くの
人(一九七〇〜八〇年代の生まれの人も含まれる)と誤解
しませんか。

Aa…ポスト現代という意味でしょ。意味がわかると俗っぽ
いですね。

Ab…波しづきをあげて進もう、後浪！

……

Ad…新時代を作る波乗りたち！

Ab…前浪はどんな波に乗る(歯を見せて笑うスタンプ)⁽¹⁸⁾
Ac…梅雨どきは、前浪の服も流行るけど、湿気ていますよ。
Ad…私は老いているのが前浪なのか後浪なのかあやふや
で、いつも言い間違えそうになります。

Aa…後浪に敬意を表してもいいですか？

Aa…後浪はトランプ政権の大きな圧力に遭っています。反
米闘争の最前線が緊迫したら、アメリカ批判を撤回するし
かないかもしれません。

分析

公的領域で流行つたさまざまな話題は無駄話グループの
会話に結びつく。興味深いことに、話題が次から次に変
わつても、無駄話グループには「集団意識」があり、どん
な状況も反復と強調という特有の会話形式を通せば、この
集団意識が持つ立場や観点にはほとんど影響しないと見え
る。

二〇二〇年初めに新型コロナウイルス感染症が発生して
以来、無駄話グループは感染症に対して強い関心を持ち続
けてきた。グループは感染症によって生まれた恐怖のムー
ドに包まれ、会話はウイルスに関するさまざまな情報をめ
ぐり展開した。情報の出所は主にインターネットで、会話
には予防政策や対策に対する懐疑心や不信感が溢れた。
チャット履歴(3)が示すように、PCR検査を勧められたと

きのAaの反応は「サンプルが混ざって間違えられたら怖い」であったが、このことは嘘とも本当ともとれる。というのは、冗談（無駄話）の要素があるにしても、前提にはAaの検査に対する懐疑心があらわれているからである。国内政策や感染政策に対するグループの議論や見解には、常にこの「前提としての懐疑」が伴っている。数カ月後に国内外における感染状況に不思議な変化（国内では感染率が急展開し、国外では感染が急速に蔓延した）があらわれたが、基本的にこの偏見は変わることがなかった。この種の会話では、常に無駄話の形式で懐疑的な立場を繰り返し強調していると言える。こうした事実と立場の乖離、つまり、状況が変化してもそれに対する立場を変えないために生じるずれは、無駄話で埋めるのが最も効果的なようである。

チャット履歴(4)が示すように、各国リーダーの言行に対するユーモアに富んだ批評は、無駄話グループで特に頻繁に現れる話題であり、これは感染の前も後も同様である。明らかに他国のリーダーの言行は、グループのメンバー自身には直接何の関係もないが、関連するさまざまなネットニュースは、逆にメンバーたちの関心の的である。この種の話題に熱心なメンバーはAグループに多い。彼らの会話のなかで繰り返し現れる批評やコメントには、自身の生活経験や思考パターンから導き出された政治家の言行に対す

る推測、解釈が含まれている。たとえばAaの「トランプは信用できない」「ウイルスを前にしては、力を合わせて封じ込めたほうがいい」ということが典型的な例である。観察者からすると、論者は自分を政治家として想像しているか、あるいは真剣に後人のために策を授けようとしているように感じられるが、しかし実際は、役に扮しているだけか、または後人のためと言っても実際には何の意味もない。真理や政治とは関係がないばかりか、話者自身の日常生活や利益にも関係はない。無駄話グループのメンバーたちはこのような話題に多くの時間を費やしており、思考することに価値をおいているのは明らかである。こうした無駄話による会話を通して、メンバーたちは想像の世界で、現実では実現できない政治的欲求への満足感を得ることができるのだ。しかし一方で、もし無駄話の形式ではなく比較的真面目に同様の話題を論じたら、どのような状況になるかを想像するのは難しいということも、指摘しておかねばならない。

チャット履歴(5)は、無駄話グループでいつも話題になる別の一例で、それは国民の間で流行する話題である。特徴的な話題はとりわけ現代社会の痛いところを映し出している。たとえば「前浪後浪」のようなトピックの背景には、社会の敏感な部分が存在する。伝統的な中国社会はいわゆる「長老社会」の傾向にあり、若者に比べて年長者のほう

が多くの資源や権力を掌握し、より多くの社会的尊重を得る。しかし近年、これに変化が生じている。若者の社会的地位は日に日に高まり、公私のあらゆる面に及んでいる。Aaは後浪について真面目に分析しているようにみえても、後半の彼のことは自身が属する前浪への皮肉と自嘲が込められている。しかし、このような自分に直接関係のない社会の用語について真剣に考える行為は、Aaの社会現象に対する職業的な興味と科学的な研究精神を反映している。これに類似する話題を話すときは、決まって真面目な話と無駄話が混在する。チャット履歴(5)のような話題では、話者はこの種の事象に興味はあるが、研究し理解した結果、気まずさや自嘲を感じたわけではない。また批判的には見えないことがわかるが、その点はチャット履歴(4)のような話題に対する態度とは異なる。反対に、無駄話がこの種の気まずさや自嘲にも効果的な表現であることは、チャット履歴(4)にも当てはまる。

このようなチャット履歴(3)、(4)、(5)でみられるような会話や考え方は、現代の人類学の専門的訓練とは著しく食い違う。と言うのも、現代の人類学は特に近距離による参与観察を強く主張しているからであり、もし参与観察がなければ、他者を判断する際に大きな誤差が生じると強調する。その意味からすると、無駄話には反実証主義的な面が如実にあらわれており、話の参加者は先入観にとらわれた

立場にあると言える。グループ内のニュースやニュースについての分析をみてみると、確実な実証的調査もなく、問題解明のためでもなく、ただ既存の観点や立場を根拠に論じあっているにすぎない。この時まさに、グループの序列どころとして存在し作用している。前にも述べたとおり、グループの関係構造を維持することと、事象の事実を述べることとの間に緊張が生じた時は、無駄話をするものがその緊張を解くのに有効な方法となる。無駄話の形式を使えば、自身の「偽」を表明しつつ、グループの関係構造に沿うことができ、しかも「偽」であることを非難されることもない。ここでは「偽」はより正当な存在となり、真理を明らかにすることは重要ではない。

六 チャット履歴と分析2

チャット履歴(6)…美食

リーダーは美食愛好家であり、また料理が得意である。彼はいつも自分の手料理を写真に撮りグループにあげる。メンバーがこれを称賛すると、リーダーは得意げに自分の料理の秘訣をシェアする。他の無駄話に比べて、毎回グルメや料理の話になると会話はとても真面目になる。たまた他のメンバーも、自ら進んで食べ物画像をシェアする。

Abがお手製の土豆豌豆蝦仁（ジャガイモとグリーンピースとむきエビの炒めもの）の画像を一枚あげた。

Ab…リーダーのレシピをアレンジしました（口を押えて笑うマーク）

Bd @ Ab、粘りすぎているように見えるけど、とろみはつけないでも良かったのでは？（歯を見せて笑うマーク）

Ab…とろみはつけてないのですが、ジャガイモのせいです。（ぬれぎぬのマーク）

Ab…もつと練習せねば。（がんばるマーク）

Aa…名人！

Ab…（顔を覆って泣くマーク）からかわないでください。

Aa…批評がきついほど、私の腕前のポイントがあがる！

Aa…家事はできる人ほど忙しい。覚悟しておかないと！

@ Ab

Bb…長芋にするといいですよ。

Bd… @ Bb名人（親指のマーク）

Aa…蝦仁焼冬瓜（むきエビと冬瓜の揚げ煮）もおいしい。

Bb…むきエビと豆は臭みがあるので、冬瓜を加えたら醤油を入れるのが重要。（わかった？のマーク）

Ac…豆は米と一緒に炊くといいです。手間も省けるし。

（手で顔を覆って泣くマーク）

Aa…冬瓜を焼いて塩をかけるだけで、出来上がりはちよつと甘くなります。油を熱した後にエビを素早く炒めて、匂

い消しに酒をかけると良いです。そうしたら冬瓜を入れて炒め、水を少し加える。濃い味付けにするなら胡椒をかけるといいです。

Aaが白水蘿卜（大根の煮物）と燴炒土豆絲（ジャガイモの千切り炒め）と麻婆豆腐の画像を三枚あげた。

Aa…大根の煮物もなかなかです。

Aa…何も入れなくてもほんのり甘い。

Aa…経済的で簡単。

Bd…この麻婆豆腐は美しすぎです。（いとおいしいマーク）

Bd…ぜひリーダーはレシピ本を出しましょうよ。みんなで参考にします。

Bd…グリーンピースは塩水に入れてさつと茹でると青臭さがなくなります。

Ab…皆さん名人ですね。（呆れた表情のマーク）

Aa…青臭いのではなく、さわやかな香りと行ってください。

Bd…名人への道半ば。（口を押えて笑う表情のマーク）

Aa…食器を洗いたくないなら、料理の腕前をあげないといけませんね。

Ab…どちらもしたくないです。（言わないでのマーク）

チャット履歴(7)・職場の食堂

Acがお弁当の写真をあげた。

Aa…その弁当は進歩的です！ ひとついくら？

Ac…ただなのでわかりません。(顔を覆って泣く表情のマーク)

Ac…一つでは絶対足りない。私のお腹なら三つはいけません。(恥ずかしそうな表情のマーク二つ)

Ac…でも三人前取るのは恥ずかしいから、二人前だけにしました。

Aa…職場の食堂はなくなつたのですか？

Ac…もともと食堂はなくて、ファーストフード店に配達してもらっていましたが、今は配達してもらえなくなつて、やむを得ずレトルト食品を買い出しに行きます。(口を押えて笑う表情のマーク)

Aa…自分のところに食堂がないの？ あり得ません！

Ab…ぜいたくすぎる。

Aa…食堂がなければ、一家をなすことはできません。社員の家族意識が薄れてしまう。リーダーにこういう意識がないとだめですね。

Ab…私のところは何年も食堂はないです。(無念な表情のマーク)

Aa…だから落ちぶれちゃつた。

Ac…(大泣きするマーク)

Ab…(汗が出るマーク)

Ac…私のところは食堂がなくなつて、もう三十数年になります。

Ab…(握手のマーク)

Ac…落ちぶれるのも目前です。(口を押えて笑う表情のマーク二つ)

Ac…あと数年は持ちこたえないと。私が退職するまでは何とか持ちこたえるでしょう。(顔を覆って泣くマーク)

チャット履歴⑧…ネット通販

Aa…子どもの日に十元の値上げ！

Aaがフーマー(盒馬)の「新鮮な桂魚(スズキ)一尾八〇〇〜一〇〇〇g」、標準価格七九・八元の写真を一枚あげた。

Aa…二日前はまだ六九元だったのに。ずっとフーマーはかがわしいと疑っていましたが、これが動かぬ証拠！

Aaは京東の生鮮品の画像をあげた。豚足一つ一二九元で、三九九元の二〇〇元引きの画像。

Aa…京東はなかなかやるね！

Ab…お金持ち。

Aa…値段に敏感ではない人こそがお金持ち。

Ab…私はこの数日間、何も買っていません。

Ab…彼らはブラックだとわかっています。

Bd…今日は神獣が檻に戻つて(子どもの登校が再開して)、京東もバーゲンで、実に良い日ですね。いつまでも童心であれ。祝日おめでとう。(花のマーク三つ)

Aaは習近平総書記が広く少年児童に寄せた、「勉学に励み、

理想と信念を固め、意思を磨き、体を鍛え、中華民族の偉大なる復興という中国の夢を実現するために、常に心の準備をしておくように」という内容のメッセージをあげた。

分析

多くの話題が公的領域に属するものであるが、プライベートな話題では大半がチャット履歴(6)、(7)、(8)が示すような飲食に関するものである。チャット履歴(6)は、料理に関する会話の一例である。前述のように、リーダーは料理が得意で、食事を作るのにとっても多くの手間をかけ、その出来も素晴らしい。彼はいつもグループに自分の作った料理の写真をシェアすると、他のメンバーからいろいろな形で称賛を受ける。するとリーダーは自身で磨きあげたプロ並みのレシピをグループでシェアする。専門分野にくらべて、リーダーは自分の料理の出来に満足し、見せびらかすことを気にしない。他のメンバーは暗黙の約束で、料理の分野ではリーダーと競争することはせず称賛するだけである。チャット履歴(7)は、職場の食堂、テイクアウトやレストランなど、食事のとり方に関する会話の一例で、チャット履歴(8)は食材のインターネットショッピングのようないくつかの新しい購入形態についての会話の一例である。

公的領域の話題についての会話では無駄話の形式を用いるが、これに対して美食に関する会話のときには全くそう

ではないことは注目すべきである。いつも美食、特に料理の話になると、リーダーは細心の注意を払う。一字一句吟味し、熟知してからレシピをシェアする。観察する側からすると、なぜリーダーはこういった話題では無駄話をしないのかという疑問が自然と生じる。その一つの答えとなり得るのが、チャット履歴(7)のなかでリーダーが言った、「食堂がなければ、一家をなさない」の一句である。多くのチャットから明らかのように、リーダーは無駄話グループを一つの家に見立てているらしく、日常的関係を維持するために真剣で、しかも「食」がこうした関係を維持するための核心的な内容であると考えているようだ。他のメンバーもこれに従って、この種の話題のときには無駄話が少くないのは興味深い。

中国の伝統文化である「家」と「国」への二つの感情のうち、リーダーがグループ内で直接または間接的に主張する文化の気風には、家文化を大切に作る風潮があると仮説を立てることができそうだ。また同時に、チャット履歴(3)から(5)までの内容やその意味を考えると、無駄話グループは多くの部分で何かしら国文化を排斥もしている。

メンバーのリーダーに対する称賛やお世辞も取り上げるべき現象である。事実上この二つは区別が難しく、あるいは区別は不要なのかもしれないが、誉めことばには本心からのものもあれば、功利的な考えによるものもある。しか

し、会話に全く誉めことばがなかったとしたら、グループはどのような状態になるか、筆者には想像することが難しい。チャット履歴による観察を通してわかるのは、お世辞がもつプラスの効果は、グループ内部の接着剤としての働きであり、それがなければ明確な縦の序列関係は円滑にはいかないかもしれないということである。円滑でなければ、序列間で日常的に冗談を言い合うようなことはできないであろう。

ここまで論じた時点で、無駄話グループの嘘とも本当ともつかない立場や観点やことばには、実はある種非常に普遍的なものがあるということに気づく。言いにくいことであるが、どうやらその普遍的なものとは、リーダーやメンバーが真面目ではないことのようにだ。そこでさらに疑問が生じる。このような「真面目」な集団が、何のために正反対の「不真面目」（つまり無駄話）をその日常的なコミュニケーションの表現方法にしているのだろうか。

七 チャット履歴と分析3

チャット履歴⑨…文章創作行為

感染症の流行で、みんなが家に閉じこもり、空き時間が増えると、チャットする内容もなくなってしまう。そこで一度、リーダーが感染症流行に関する短い文章をひとり

一篇ずつ創作し、グループでシェアしようと持ちかけた。みんなは快諾し、まもなくメンバーひとりひとりが期日にあわせて自分の作品を公開した。

どれも感染症流行に関するものではあるが、主題はそれぞれ異なり、作風や視点も各々異なるものとなった。リーダーが書いた文章の主題は「デマ」で、インターネットにデマがあらわれる原因やルールについて分析を試みた。デマと無駄話には密接な関係があるのは明らかで、この主題に対する興味や探究から、リーダーがインターネットのニュースに対して懐疑的な態度を持つ傾向があらわれており、また真実を求める願望があることがわかる。それは彼がグループで日常的コミュニケーションに無駄話を提唱する姿勢と矛盾する。この矛盾は、真相への関心と無関心が極端に並存するのに近く、このことはリーダーとその他メンバーの見逃せない特徴である。

全ての作品を鑑賞し、リーダーは一つ一つにかなり専門的な批評を加えた。しかしその後、彼は人が予想もしない次のような結論を引き出した。「文章を書く」と真面目になつてしまい、真面目になると無駄話ができなくなってしまうことに気づいた。だから、今後は書くのを控えれば、無駄話を続けていくことができる。」

分析

この最後のことばは無駄話グループの一番の主旨を示している。つまり、すべては「無駄話を続けていけるようにする」ことが肝心なのである。これは決して簡単なことではない。事実、この何年かウィーチャットグループでは、常にいくつもの衝突が発生している。特に新型コロナウイルス感染症の流行以来、ネットユーザーはあらゆる事件について世論を戦わせては分裂、分極化する傾向にあるようだ。多くのウィーチャットグループでメンバー同士の攻撃や罵り合い、態度の豹変、脱退、音信不通などの現象がみられ、関係の破綻は珍しいことではない。それに比べて対照的に、無駄話グループでは争いや衝突が起こることは極めて少ない。本論が取り上げるこの時期に、Aグループのメンバーが争ったことは一度もなく、Bグループでは二度あつたがすぐに和解した。しかし、少し観察すればすぐ誰にでもわかるように、無駄話グループのメンバー同士の間でも、問題の視点には相違があり、その相違が非常に大きいときもある。それでもなぜ無駄話グループは問題なく平穏でいられるのだろうか。

前述したように、話題選びが大きな理由である。誰も明言はしないが、話題は総じてグループメンバーとは直接利害関係のない範囲内に限られている。それでも、わずかに真面目な声が出てしまうときがあるが、たとえばチャット

履歴(2)のように、間違った発言には、正誤に関わらない「でたらの肯定」(つまり「ああ、確かに!」)の一言で、言い争いや気まずさが生じないようにしている。また、文章創作の例ではさらに有力な別の解釈ができる。文章創作はメンバーひとりひとりが真面目に自分の考えを述べる機会であつた。しかし、その後リーダーはすぐに、これでは会話を続けていけないことに気づいた。なぜなら、考え方の相違のせいで、逆に終わりのない論争やメンバー同士の反目が起こってしまうかもしれないからだ。こうして彼は、無駄話を続けていくために、もうこのようなものは書かないようにすることを提案した。「真面目に書く」という真剣な態度のあらわれが、グループの活動を衰えさせてしまうことになるのだ。以上をまとめると、グループ内でのようなことばの表現方法を使うかは、「無駄話を続けていける」かどうかが主な判断基準になっていると言うことができる。

無駄話グループのように自発的に結成されたグループでは、その構造そのものが曖昧で、制度の保障もなければ明文化されたルールもない。そのうえ、リーダーとメンバーは既存の社会やコミュニケーションの認識をもとに、ウィーチャットグループのような新しい伝達メディアを用いてコミュニケーションをしており、古い考え方と新しいツールとの間にギャップが存在している。無駄話グルー

プがグループであるためには、多くの不確定性と矛盾を含む。このため、グループを維持していくことはまだ手探りの状態であると思われる。グループを継続させ、かつ日常性を持たせるには、ほぼ毎日いろいろな話題についてコミュニケーションをとり、無駄話の重要な特徴である「不真面目」になることが差し当たり有効な方法である。そういう意味で無駄話は、上述のような状況下で、このような組織を日常的に維持していくことと密接に関係していると言える。

八 結論

——日常としての無駄話の機能とその課題

二〇二〇年代に入り、二〇世紀後半から現在まで、中国の人類学とその関連分野とともに歩んできた研究者たちは、激変する国内外の情勢や科学技術の革新、あるいは自身の理想と現実の間でさまざまな戸惑いに直面した。無駄話グループは、そのようななかで、ウィーチャット上に開設された公私にとらわれないグループチャット空間である。無駄話はこの空間での主要な会話形式であり、それは以上のような歴史背景と彼らの心理状態が凝縮してあらわされたものと思われる。

フランクファートの説に戻ると、本論の無駄話グループ

のチャット履歴に対する分析は、フランクファートの言う「無駄話は話者の真理への無関心を表わしている」という論をほぼ証明している。しかし筆者は、無駄話の機能についての検討はこれで終わりなのかという更なる疑問を感じた。我々は、無駄話が存在し得る原因や、あるいは無駄話をする者にとつてのプラスの機能について、もっと理解する必要があるのではないか。

前述のとおり、リーダーをはじめとする無駄話グループは、メンバー間の既定の関係構造や、この構造下で進められる日常的なコミュニケーションに対して誠実であり、こだわりを持つている。これは無駄話グループの最高目標とも言える。新しい伝達メディアを使用し、話題や表現方法を選ぶのも、この目標のためである。グループ自身の脆弱性や内外部からの多くの不確定要素のために、比較的眞面目な会話では日常的なコミュニケーションを中断してしまう可能性が非常に高く、これはグループの最高目標に背いてしまうことにもなる。こうした状況では無駄話が日常を維持するために必要かつ有効な方法となっている。無駄話の会話形式で重要なのは、話し手も聞き手ともに不眞面目かつ無責任な態度を容認することである。こうした態度によって、話題の事実に対して不理解で利害関係にないことを、両者が互いに補い合っている。こうした態度は眞理を追究することにはならないが、無駄話をする者に想像上

の満足をあたえ、また日常的コミュニケーションの継続を保証する。これは本グループが最重視する意義と一致する。簡潔に言えば、ここでは、無駄話のプラスの機能は、「真」ではない方法によって、「真」ではない現実に対応していると考えられる。

さらに、オンラインでの言語コミュニケーションは、か
らかい、皮肉、冗談などを含む無駄話の形式で進められる
が、これは常にメンバー間の関係が平等自由であるように
みえても、実際にはこうした無駄話はオフラインつまり実
生活における既存の序列構造を覆しもぐらつかせもしない
だけでなく、逆にこの構造を複製し強化するのに有効に作
用していると筆者は考える。というのは、第一に、真面目
な話か無駄話かにかかわらず、グループは既存の序列関係
を維持することを主な基準としており、これに抵触するよ
うなことばや話し方をグループ内から消去しているからで
ある。第二に、年少者はこうした場に参加することで、無
駄話の気風の影響を暗に受けているからである。これは狭
い範囲での人間関係の親密度を強化するかもしれないが、
無駄話に隠された真理への無関心は、彼らにとってマイナ
スの影響を生み出しているのではないだろうか。

本論は無駄話がこのような歴史背景の下で、あるグルー
プの日常を維持するため積極的に作用していることを論じ
た。しかし、筆者はさらに問いたい。もし人と人との実質

的な関係上、必然的に真理と関わる必要が生じて真面目に
なり、無駄話によって作られた表面上の楽しい関係との間
に衝突が生じたとき、どのような状況になるだろうか。そ
れでもまだ無駄話はそのコミュニケーションとしての魅力
を顕示し続けることができるだろうか。

注

〈1〉 この二次元コードは料金を回収するためのものであ
り、支払う人が二次元コードをスキャンし、コードの持ち
主の口座を登録して支払う。このため「彫り師が偽造す
る」という話は、偽造者自身の口座に入金されるわけでは
ないので成り立たない。

〈2〉 後ほど紹介するが、本グループは新型コロナウイルス
の感染が流行する前には「人類学者の無駄話グループ」と
呼んでいたが、流行後に「無駄話プラスグループ」に改名
された。本論で筆者はまとめてこのグループを「無駄話グ
ループ」と呼ぶ。

〈3〉 多くは国内で、少数は国外で働いている。

〈4〉 ウィーチャットアプリのきまりで、一つのグループの
上限人数は五百人である。

〈5〉 引用符内の内容はインタビュウの記録の引用である。

〈6〉 言及すべきは、ヨーロッパの科学界では、自然科学、
社会科学ともに、年齢を序列区分の標準とする考え方は消

失している。飛びぬけて優秀な年少者は年齢の枠を超えて学界の先鋒とされる。このような状況は無駄話グループやその代表する学術グループではまだ見られないが、それによって生み出される構造的な緊張はすでに感知されている。

〈7〉 Af、Bd、Beは仮の記号。記号のつけ方については後述する。

〈8〉 余乃忠 [2010:116-120]。

〈9〉 二〇二〇年に感染症の流行が始まって以降、その動向が無駄話グループの主要な話題となっている。リーダーとメンバーの感染症に対する関心は、政府の政策や対策に集中しているようで、またこの種の関心は明らかに批判的な見方を帯びている。同時に、ネット上でさまざまな感染症に関するニュースが飛び交うため、本グループでもどのニュースが真実で、どれがデマかを興味津々に議論している。

〈10〉 チャット履歴の傍点部分は、筆者による強調を示す。

〈11〉 国際関係、特に米中関係が一貫して本グループの関心の的である。中でも特に各国リーダーの動向を重視している。インターネットは無駄話グループのメンバーたちが関連するニュースを得る重要な経路である。これらのニュースに対して、真偽を見分けることにもメンバーたちは非常に精力を費やしている。

〈12〉 『譚書記』は、世界保健機関事務局長テドロスに対するネット上での皮肉を込めたニツクネーム。

〈13〉 原文は「那必須滴」。「滴」は「的」と同音。いま流行のネット用語のうちの、同じ音の字を当てる表現のしかた。

〈14〉 『川建国』とは中国のネットユーザーがトランプにつけたネットでのあだ名。「建国」は「中国の建国を助ける」という意味。

〈15〉 『甩鍋』は、押しつけに関するネット用語のひとつ。

その意味は、責任の主体がある事柄の発生に対して責任を負いたくないため、さまざまな方法で他の主体に責任を押し付けようとする。この語は感染症の期間に、さまざまな主体が互いに感染症に関する責任を押し付け合う現象を表わすのに用いられ、一気に流行語になった。

〈16〉 『譚書記』と同様、皮肉を込めたニツクネーム。

〈17〉 <https://baikedaifu.com/item/>を見よ。

〈18〉 原文は「梅雨季節、前浪的衣服也還是挺潮的嘛」。「潮」はここでは「流行」の意味と「湿る」の意味を掛けた、掛け言葉になっている。

〈19〉 原文は「向後浪致敬還不行嗎?」。「致敬」は年長者や身分の高い人に対する敬意を表す。ここでは意味をはっきりさせずに使っているが、反語と諷刺に取るべきであり、Aaの現在ネットで提唱されている後浪への態度に対する無駄話を用いた批評である。

〈20〉 無駄話の形式を用いると、それほど謙遜せずに気まずさや自嘲を表現することができる。とくに「面子」という重要な文化要素を背景にしては、直接的に気まずさや自嘲を表現するよりも、このほうがずっと「面子」を保てる。

- 〔21〕原文は「俺們多少年木有食堂了。」「木有」は「沒有」と同音のネット表現。
- 〔22〕「盒馬」はアリババグループ傘下の、データと技術を駆使した新しい小売サイト。
- 〔23〕「京東」は国内最大規模のeコマースグループ企業。
- 〔24〕原文は「有錢銀」。「有錢人」の当て字。ここに「銀」の字を用いるのはネットで流行している用法。この言語形式の原因については現在研究中である。
- 〔25〕「食色性也」（食も色も性なり）（孟子『告子上』）と言うように、美食についての会話と全く対照的に、「性」に対する議論はほとんどなされていない。性を論じてはならないというルールはどこにも明文化されていないが、チャットでこの話題が出たことはない。

参考文献

- 〈中文〉
- 傅義春 2015 「扯淡」探源』『長沙大学学报』二〇一五年第二九卷第一期、六八一—七〇頁
- 傅有美 2013 『網絡「扯淡」的光榮與現實』南京大學
- 黃子平 2006 「真理」謊言與扯淡』『魯迅研究月刊』二〇〇六年第一期、九二—九四頁
- 劉亞琴 2013 「掩盖在扯淡本質之下的事實』『科教導刊』(中旬刊)二〇一三年第三二期、一六七—一六八頁
- 劉森林 2006 「反諷」主体与内在性——兼論馬克思哲学中

- 的反諷維度』『現代哲学』二〇〇六年第五期、一八一—二七頁
- 劉榮昇 2002 「扯淡」瑣談』『是与非』二〇〇二年第九期、一七一—一八頁
- 冉曉麗 2012 「淺談「扯淡」之文化現象』重慶科技學院学报(社会科学版)二〇一二年第二二期、一四—一五、二〇頁
- 余乃忠 2010 「現代性話語三相』『學術界』二〇一〇年第一期、一一六—一二〇頁
- 哈里・G・法蘭克福 2008 『論扯淡』南方朔訳、鳳凰出版伝媒集団、訳林出版社、三七—三八頁
- 哈里・G・法蘭克福 2009 『論真実——不扯淡的智慧』孫滌訳、鳳凰出版伝媒集団、訳林出版社、三七—三八頁
- 〈英文〉
- Douglas, Mary 2010 *Implicit Meanings: Selected Essays in Anthropology*. Routledge.
- Frankfurt, Harry G. 2008 *Lun Che Dan = On Bullshit*. Yi Lin Chu Ban She. (日本語 山形浩生訳・解説『ウソコな議論』筑摩書房、二〇〇六年)
- Frankfurt, Harry 2009 "On Truth, Lies, and Bullshit." *The Philosophy of Deception*. Oxford University Press, pp. 37-48.
- Harwit, Eric 2016 "WeChar: Social and Political Development of China's Dominant Messaging App." *Chinese Journal of Communication*, Vol. 10, No. 3, pp. 312-327.
- Herzfeld, Michael 2014 *Cultural Intimacy: Social Poetics in the*

Nation-State. Routledge.

Olsson, Erik J. 2009 “Knowledge, Truth, and Bullshit: Reflections on Frankfurt,” *Midwest Studies in Philosophy*, Vol. 32, No. 1, pp. 94–110.

Petrocelli, John V. 2018 “Antecedents of Bullshitting,” *Journal of Experimental Social Psychology*, Vol. 76, pp. 249–258.

Richards, Christina 2008 “Truth and Bullshit,” *Psychologist*, Vol. 21, No. 7, p. 642.

※本文中の〔 〕は訳者による補足。